

神の御名（中）：最も慈悲深き御方

:

明:アッラ の美しき御名についての解 。アッ=ラフマ ンとアッ=ラヒ ム。

目:[事イスラ ムの信条神について](#)

より: ア イシャ ステイシ

日15 Dec 2014

集日 14 Jul 2019



慈悲あまねく慈 深き神（アッラ ）の御名において。

この 事は、ムスリムが物事を 始するにあたり唱える言 と共に始まります。 食や衣服の着用、入浴などの最も日常的な行 であれ、 始の前にムスリムはそれを崇 行 とすべく、神の御名に言及します。かれ（神）は最も 大かつ最も慈悲あまねき御方であり、かれの慈悲はあらゆるものに及び、存在し得るすべての慈悲 慈 の源泉なのです。神はクルア ンの中でこのように述べます。“ われの慈悲は、凡てのものにあまねくおよぶ。”
(クルア ン7:15)

言者ムハンマドの言行 から、私たちは神が 造の にこのように述べたことを知ります。

“ われの慈悲はわれの怒りに なる。(サヒ フ ブハ リ 、ムスリム)

具体的に、慈悲とはどういったものなのでしょう？

辞 には「いつくしみ、あわれむ心、情け深いこと

」などとされています。アラビアにおける慈悲は「ラフマ」であり、神の御名のうち最も重要なものの2つはこのを根として派生したものです。それらは、「アッ＝ラフマン」慈悲あまねき御方、そして「アッ＝ラヒム」最も慈深き御方です。神の慈悲とはしさを敬、思いやり、慈、赦しを包括する妙な性です。それらの性が世においてできるのは、神による被造物への慈悲の反映に過ぎないのです。

言者ムハンマドは、神による被造物への慈悲は、母による子供への慈悲に類するものであると私たちに告げており（サヒフブハリ、ムスリム）、事アラビアで子の意味する「ラヒム」は、慈悲を意味する「ラフマ」と同じ根から派生したのです。神の慈悲と子に独自のつながりがあるということは、とても重要な意味を持ちます。子が胎を育し保するように、神は私たちが育し保するからです。

言者ムハンマドは慈悲の性について、神は100部の慈悲を持ち、そのうちの1部だけを被造物の で分け合われるよう下したことを教友たちに明しています。これにより人々はお互いを思いやり、切にし、物たちも子供たちを慈しむものの、神は残りの99部を判の日、信仰者たちへと授けられるのです。（サヒフムスリム）

被造物のすべては、この1部だけの慈悲を元にした情や思いやりをお互いに示し合っています。人はしい人や困者にすすんで喜し、家族はお互いをして支え合い、物は赤ん坊を守ります。一般的に慈悲と思いやりは、苦を和らげ、切さや幸せをめる役目を果たします。この世界はには暗くな所に映るかもしれませんが、熟考し反省する者は、神の慈悲を出し、感じとることができます。雨は降り、太はき、子供は父の手を握りしめ、子猫は温かい母猫にくっついて体を丸めます。神の慈悲はく、私たちの周りから取ることができませんが、かれは判の日に善行をみ、神のご悦を得ようと努力した信仰者だけのために残りの99部を加え、かれの慈悲を完全なものとしします。こうした概念は畏敬の念を抱かせます。神の慈悲には制限がないのです。

人への限の慈悲のしるしとして、神はきのため、そして永のへとく正道に留まらせるために言者使徒を遣わしました。神は、言者ムハンマドを遣わしたのは、人への慈悲に他ならないと述べています。

神による数え切れない祝福に して私たちが感 したいとき、または何か必要なものがあるときは、それらの御名でかれに呼びかけることができます。特に安心感や安全が必要な は、私たちは神の慈悲を く欲します。 世の さが私たちに 力感を与えるとき、最も力 い御方は常に、そして永 にかれの慈悲を私たちに降り注ぎますが、かれが私たちから求めていることは、かれを信じ、かれのみを崇 することだけなのです。

脚注：

1

ス パ 大辞林。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1579>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。